

「情報」に関連して、論点とすべきと考えている項目

- “個人”の存在の有無に関して明らかなように、日米は本来異質な背景を有して現在のネットワーク社会(“Net”)に参加しているはずだが、なぜ米国における事例をもってNetの総体として断ってしまうのかー日本の独自性(特殊性)ー“お上”が常に存在(←農耕)ーを看過するのはなぜかー？

理念先行が過ぎるのでは？ー背景になっている文化の理解が不十分ではないか(e.g. R.Stallman自身が極めて優秀なプログラマーであり、“computer-literate”であることを看過している)／但し、日本の情報技術の専門家は、逆に全く理念がないために、単なる米国の後追いをやろうとしているように思えるー → 添付資料

- 「情報」の重要性の変質の理由を指摘しないのはなぜかー情報操作だけでは決して製品はできないのにも拘わらず、なぜ情報のみをこれほど重視するようになったかー？

理念を持たない情報の専門家たちは“世の中全てが情報で動いている”などという暴言を吐いたりしていたが(←“一般情報処理教育に関する公開シンポジウム”-’02.03.16-)、理念を重んじるポスト冷戦研においてこの点を看過するのはおかしいと思う

- 数の上で圧倒的に少ないLinuxユーザを採り上げてその理念上の意味づけを行なおうとしているのにも拘わらず、莫大な慣性を有するまでに成長して実際に存在しているWindowsユーザの意味づけ／分析をなぜ行なわないのか？

- MSユーザ≒大量の初心者と“寄生産業”との関係を論じないのはなぜか？

上記2点に対しては、PCというものが所謂ヲクの“なぐさみもの”から、莫大な裾野(経済波及効果)を有する巨大産業群のシンボリック的存在に変質した、という事実を正しく認識しなければならない

- 現実に重大な問題となっているにも拘わらず“ネットワークセキュリティ”を論じないのはなぜかー現実の世界(安全保障)との明確な対照があるー？

防衛産業が不滅なのと同様、セキュリティ関係は(性悪説が正しいとする限り)今後決して斜陽にならない分野である!!

- P2Pなどの技術のセキュリティ上の問題点を全く指摘しないのはなぜか？ーデータ交換に用いるプログラムは決して自作ではない→自らのPCを他人の意のままに利用される危険性ありー

使用者自身が気づかないうちにウィルスをばらまいたり、核兵器開発のための数値計算をさせられていたりする可能性がある(渋井先生(p.4)・平野先生(p.2)の御指摘は全く同感) → 添付資料

- 企業が技術情報を開示する(“Linux方式を採用する”)真意を理解しようとししないのはなぜか？ー当該情報は特定少数のものしか有効活用できない／従って、当該情報の使用方法を提示するという新たな有償サービスを提供する機会が必然的に発生する／社会に対してオープンにしているというスタンスをとれるー

LKCDに関するIBM他4社の声明文参照ー資本が現実的にLinux Communityを動かしていることの好例ー

・現行のLinuxにおける「Linux型開発方式」の勘違い

・kernelはLinus氏が最終判断

・(商用) distributionの開発はまさに伽藍方式—CS実現／新規ニーズ創出—

☆大多数のend usersにとっては、distributionの使い易さとそこにbundleされている商用アプリケーション＋サポートこそが大切(そこに対価を支払っている)

—つまり、MicrosoftのビジネスモデルそのものをLinux distribution vendorはそっくりそのまま利用している(拙文『Linux Communityの変容可能性』参照)—

・「ソフト化」＝使途が自明であるもの(e.g. 白物家電)から自明ではないもの(PC)への移行、という視点が必要なのではないか—end usersにおける使途を如何にして創出するか—

これは、Intel / Microsoftの行動原理そのもの(拙文『PCバブル』参照)

・80年代の半導体産業(特にDRAM関連)を、「明示された方向性の下での成長」と見るべきではないか? →方向が変化してしまったために過剰設備を抱えており、現在では、「方向性を創出する」ことができる企業のみが生き残れるのではないか?

Intel / Microsoftと日本の総合電機メーカー(こぞって汎用DRAM製造から撤退を発表済み)との明確な差(拙文『ソフトウェアによるDRAM支配』参照)

☆人類史的な観点からは、特定の個人間(どのようにその個人を特定するかが極めて問題ではあるが ←サーバを介さなければ見つけようがないから)の直接通信である P2P ではなく、**個々人が自らサーバを立てて不特定多数に対する情報発信(web publishing)を初めて行なえるようになった、という点が最重要**である!! e.g. 東芝ビデオ事件／東芝内視鏡事件

☆上記視点を“運動”に如何に繋げていくか? ことが、ポスト冷戦研が正面から対峙すべき課題なのではないだろうか? —寺内自身は、“個の育成”という面からのアプローチを日々行なっているつもり／単に、R.Stallman の“運動家”としての側面だけを見ているのでは不充分(→“底が浅く”なってしまう)—

☆「iモード」は日本を滅ぼす!!

—情報の受信者にはなれても発信者にはなれない; 特定少数の発信者からの情報に無批判に盲従するようになる— = 旧来(『卑弥呼』の時代)からの“お上”の温存に他ならない!!

メインフレーム ↔ **dumb 端末** (dumb であろうとも、自ら意図したプログラムをメインフレームに走らせていた)

↓ 転化

サーバ ↔ **クライアント PC** (intelligent 端末なので、情報の自主的な加工が可能)

↓ 転化

サーバ → **モバイル端末(iモード)**; 放送と本質的に何ら差異無し!

双方向性の欠如

☆新しい「デジタル・ディバイド」

・不特定多数への主体的な情報発信ができる者とできない者

・ネットワークに接続されている者と接続されていない者

e.g. MS の Xbox—ゲームそのものをネットで販売する→ネットに接続されていないとゲームすらできない(ゲーム途中のデータを全てMSのサーバー但し、これは、“分散”クラスタ構成を取らざるを得ない—が中央一元管理する)

(御参考) 寺内個人が考える一般情報処理教育(特に、国際／芸術学部(文系)学生向け)の理念

- ・一般情報処理教育は、“読み・書き・そろばん”を『補完』する技量としての“**computer literacy**”を学生さんに体得してもらうためのものである

読み・書き：『自己表現能力』を涵養するための手段

そろばん： 論理的思考方法の『トレーニング』手段(目的ではない)

☆大学教育の目的を、“自己の確立”におく立場を取っている

ー技術者養成が目的であると考えれば、やるべきことは異なるはずー

☆“読み”が“書き”よりも先にきているのは、過去において人類が培った知識ベースが(その一部なりとも)個人の内部に存在して初めて自己が形成される、と考えているからである

- ・現存する情報ネットワーク社会が起こした最大の変革は、

個人による不特定多数への(すなわち、一対多の)情報発信(web publishing)を人類史上初めて可能にした

ことであるーある程度以上のスキルと1万円／月ほどの資金があれば個人がサーバを立てて、全世界に向けて情報発信することができるー

☆主体的な情報発信をすることが可能なのは“確立した自己”であるという前提で考えている

☆“computer-literate”=“computer-**network**-literate”と考えている

☆着任以来、寺内自身が国際学部生に対して課している、

自分の意見を主張するホームページを英文で作成する

という課題は、上記理念に従ったものであり、仮に、全受講生が高校までの段階でPCの操作を完璧に習得してきていたとしても、(基本的には)大学初年度生に対する課題とするにふさわしいと考えている(もちろん、その指導方法及びその成果に関しては、十分な(自己)批判及び検討が必要であると思っている)